

体育教員が日本について英語で教えてみたら。 Vol.10

2月22日(水)、今日は兵庫文化センターで「おにぎりワークショップ」のお手伝いをしに行ってきました。シドニーから特別講師をお招きして、ご自身のショートフィルムを題材にしてワークショップが開かれました。おにぎりワークショップと言っても、みんなでおにぎりの握り方を学ぶのではなく、日本人のアイデンティティーをおにぎりで表現し、自らのアイデンティティーを考えるワークショップでした。パースのある学校の9年生が100名程度、日本語授業の校外学習として訪れ、ワークショップを楽しみました。

私はおにぎりにちなんで、お米クイズを企画し、米の歴史やブランド、農法、プロダクト、給食など様々な角度から代表的な日本文化であるお米について紹介をしました。クイズは全て4択問題にして、グループで解答を考えられるようにしました。グループの代表者がウルトラクイズ方式(古い?)で、前に出てきて解答を選びます。全生徒がクイズに関わっている雰囲気を出すとともに、誰が何を選んだかわかりやすくなるよう工夫もしました。また問題は全て日本語で作りました。問題を聞いて、漢字から意味を想像し、問題文の意味を英訳していく作業も面白かったです。

多文化共生のオーストラリアにおいては食生活も各家庭によってかなり異なります。お米をよく食べる家庭もありますが、そうでない家庭の方が多いはずです。お米にしても日本のようなもちりとしたジャポニカ米ではなく、スラ~としたインディカ米を食べている家庭もあります。なので、炊飯の仕方を問題にしても、果たしてどうやってお米を炊くのだろうかと感じた生徒もいれば、自分の家とはやり方が違うと感じた生徒もいたはずです。

ワークショップの前には、どうやって日本文化を伝えたら生徒たちの心に残るだろうかということを考えていました。しかし、講師の先生のワークショップを通して異文化を学ぶことで自分のアイデンティティーを再認識できるということを強く感じさせられました。集まった生徒たちは、小麦粉に親しんでいたり、お米に親しんでいる、特定の食品を食べなかったり、ベジタリアンだったり、食文化という一側面だけでも多種多様でした。日本文化を学びながら、自分のバックグラウンドやアイデンティティーについて考え、友だちと違うところと同じところを見つけ出し、お互いの文化の良さを捉えていけたら素晴らしいですね。



もんだい 8 はんばい 日本で販売されていない米のブランドはどれでしょう？	
A ミルキークイーン milky queen	B もりのくまさん a bear in the forest
C きらきらぼし twinkle stars	D ひとめぼれ fall in love at first sight